

私たちは、 フクシマを 忘れない。

全造船関東地協労働組合
よこはまシティユニオン

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505
TEL 045-575-1948
yuniyoko.sakura.ne.jp



裁判官が原発を止めた理由 一般住宅より地震に弱い原発

福井地裁で、関西電力大飯原発3・4号機の運転差し止め判決（2014年5月）や、高浜原発3・4号機の再稼働差し止め仮処分（2015年4月）を出した元裁判官の樋口英明さんが、「私が原発を止めた理由」（旬報社・1300円＋税）という本を出しました。樋口さんは、もともと原子力発電に疑問を持っていたわけではなかったのですが、原発の裁判を担当して調べていく中で、地震に耐える性能が一般住宅よりも低いことが分かり、原発の危険性があまりにも明らかなることを知ってしまったので、社会の人にも広く知らせる義務がある、と本を出しました。

1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに地震の観測網が整備されたのは2000年頃、わずか20年ほど前です。日本にたくさんの原発が作られた40年前頃、震度7の地震の加速度（地震の強さ）は、400ガル程度とわれていました。しかし、現在では1500ガル以上に相当することがわかっています。原発

<裏面に続く>

老朽化した原発は**廃炉**に！

は事故を起こしたら大変なので頑丈につくられているはずだ、と多くの人が思っています、樋口さんもそうでした。でも実は、地震に強いことが売りの一般住宅より、はるかに耐震性が低いのです。

高浜原発は、つくられた時よりも、「基準地震動」（どれだけの地震に耐えられるかの基準）が高められました。現在でも700ガル、大飯原発は856ガル、美浜原発は993ガルです。2000年以降日本では700ガルを超える地震が30回、1000ガルを超える地震が17回起きています。最高は、2008年の岩手・宮城内陸地震（M7.2/最大震度6強）の4022ガルです。日本の原発は、「震度6の地震で危うくなり、震度7の地震で絶望的な状態」（樋口さんの著書から）になる危険なプラントなのです。

一方、三井ホームの住宅は5115ガル、住友林業の住宅は3406ガルの地震に耐えられるよう、耐震性を高めています。

普通に起こりうる地震以下 停電や断水も事故に

地震は予知できません。ましてや原発の周りだけ正確に強さを予想することなどできません。なのに、住宅より低い耐震性で原発の運転が認められているのは、原発の建っている場所では「基準地震動」より強い地震は起こらない、と決めてしまったからです。どこで、どんな地震が起きるかわからない日本で、そんな保証をだれができるのでしょうか。そして、水道が止まり、停電しても住宅の本体はこわれのないのに、原発は水や電気が止まったら、大事故につながりかねません。

原発は、最近の住宅よりも地震に弱く、普通に起こりうる強さの地震にも耐えられなく危険。だから樋口さんは原発を止める判決を出したのです。

力を合わせて、原発のない社会をつくっていきましょう。 【組合員N】

■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオンの組合員だった長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁2010年4月）。

■ 原発で働く労働者と共に

原発は電力会社を元請とした4～8次の下請会社で稼働しています。3.11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

■ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため、私たちが毎月11日に街頭宣伝活動を始めて11年目になります。これからも、何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！